

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

津山市立南小学校

1 津山市重点取組

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) ①授業改善 ②つまづき解消 ③家庭学習と授業をつなぐ ④補充学習	①学力向上担当者 ②各担任 ③学力向上担当者 ④学習支援員と各担任	①全国及び県学力・学習調査の分析から見える授業改善についての研修。 ②苦手分野(領域)課題のある「書くこと」について系統だった指導。また、基礎・基本と活用力の向上を図った指導。 ③よりよい自主学習にむけての取組の提案や、自学の広場への掲示の声かけ。授業の最初にフラッシュカードで既習内容を確認する等の工夫の提案。 ④パワーアップ週間の設定。	①6月中・夏季休業中 ②年間を通じて ③年間を通じて ④年間を通じて	①全職員で結果を分析し、課題に対する対策を考え、日々の授業にどのように生かすか全職員で共通して取り組む。 ②全校で毎週金曜日の朝学習に「100マス作文」に取り組み、テーマや段落など条件を設定して行う。また、低学年では100マス計算に取り組み、基礎計算の力を確実にする。 ③自学の広場で参考になるノートの掲示を工夫したり、自学メニューを掲示したりして自学メニューを提示して、児童が意欲的に取り組みやすいようにする。 ④データベースや「無料教材工房」等を活用する。週に1度は、前学年の学習内容の課題に取り組む。	①国語や算数(数学)の授業がわかると回答する児童の肯定的な回答が90%以上。 ②条件に合わせた文章が書ける児童が60%以上。 ③各学年とも、「学年×10分+10分」の家庭学習に取り組む児童が80%以上。 ④前学年の学習内容の理解できている児童が80%以上。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	①各学年担任 ②生徒指導・情報担当	①スマホに関するアンケートと情報モラルの指導やスマートフォンやメールの使い方についての学級指導。 ②メディアに関する高学年と保護者対象の講演会。	①年間を通じて ②10月中	①家庭学習の時間、メディアの利用時間の調査を学期に1回行う。調査した内容は、個人懇談や学級懇談などでも話題として取り上げ、保護者の意識も高める。 ②PTAとも連携を図り、10月の参観日での講演会では、メディアに関する内容のものにする。	①メディア利用が1日平均2時間以下の児童の割合が70%以上。 ②講演会の保護者の参加率が50%以上。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(小学校6年生) ○国語は全国平均より正答率がやや低く、算数はどの領域とも正答率がかなり低い。 ○ことわざ「習うより慣れよ」本校82.6%(全国73%)や、接続語を使って2文に分けて書く問題の理解は高かった。「疑問に思ったこと②に対する答えになるように書く」本校56.5%(全国75.9%)で課題がある。 ○算数では、「台形を選ぶ」本校100%(全国93.1%)で高い理解を得ていたが、「同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ」本校34.8%(全国60.3%)と、同じ図形でも活用型の問題で課題がある。 県(小学校3年～5年生) ○3年生は、国語、算数とも、全国平均よりも低い。基礎計算や漢字はよくできているが、算数の時刻と時間や量と測定の分野に課題がある。 ○4年生は、国語、算数とも全国平均よりも低い。漢字の書きはよくできているが、書く力にかなり課題がある。 ○5年生の国語は、全国平均よりやや低く、算数は低い。国語は全般的に理解が高いが、書く力が弱い。算数は分数、小数やグラフに課題がある。	【学習状況調査の結果】 ●6年生の家庭での学習時間(1時間以上)の割合が60.8%であり、全国平均(66.1%)に比べて低い。また、30分までしか家庭学習をしない割合が33.7%であり、全国(9.9%)と比較してかなり高い。 ○5年生は家庭での学習時間1時間以上が80.8%(県74.2%)と、家庭学習の習慣がついてきている。 ●平日にゲームを2時間以上する5年生の割合は53.8%と、高い数値となっている。 ○「先生はよいところを認めてくれる」と6年生は95.7%(全国86.1%)が思っている。 ●「自分にはよいところがある」と思っている6年生は60.8%(全国81.2%)である。 ●平日にテレビやDVDなどを3時間以上見たり聞いたりする5年生の割合は30.8%であり、県平均(26.4%)よりも高い。 ○授業時間以外に平日に30分以上読書をする割合が47.8%と、全国平均(39.8%)と比べて高い。 ○将来の夢や目標をもっている割合が86.9%と、全国平均(83.8%)と比べて高く、自らの将来を心豊かに切り拓く力が育ってきている。 ○「国語の学習がよくわかる」と感じている割合が90%を超え、「自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表していた」の割合が80%で、意欲的に授業に取り組んでいることが分かる。

成果	課題
○毎週1回、100マス作文に取り組み、文章を書くことへの抵抗が減少している。 ○ノートやドリル等に付箋を貼るなどして、間違った問題を直したり解き直すことを徹底することにより、漢字や計算の力は定着してきている。 ○4年生以上の希望児童による放課後の補充学習を週1回行い、問題データベースを活用して前学年の振り返りを行うことで、基礎計算の力はついてきている。 ○家庭学習では、どの学年も(音読・国語・算数+自学)を統一して行い、自主学習ノートの取り組みが1・2年生にも広がり、家庭学習に対する意欲が高まった。	○国語「条件を課せられた文章の記述」が例年苦手である。 ○家庭学習の習慣がついていない児童への手立てが不十分である。 ○直近に学習した内容はよく理解できているが、前に学習した内容が定着できていない。 ○データベースの活用など、前学年の学習内容の復習を全児童で実施できていない。 ○補充学習の時間を確保しにくい。 ○メディアコントロールについて、家庭でのルールづくりが不十分である。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
前学年の学習内容の定着(つまづき解消)	年度末	・全員 ・前学年の学習内容の理解できている児童が80%以上。	・特に算数で、授業最初に計算復習問題に取り組む。週に1回程度、家庭学習として前学年のプリントに取り組む。 ・小テストやプリント、ドリル等の直しを徹底する。					
家庭学習の充実	年度末	・全員 ・各学年とも、「学年×10分+10分」の家庭学習に自主的に取り組む児童が80%以上。	・自学の広場の掲示(児童の自学ノートのコピーや実物)を充実させる。 ・学校の隙間時間を利用して家庭学習の課題に取り組ませ、学習習慣を身に付ける。					
書く力を高める	年度末	・全員 ・条件に合わせた文章が書ける児童が60%以上。	・100マス作文で、キーワードを使った条件をつけて書く。(100マス作文は、各教室や廊下に掲示する。) ・自学の中で日記を書く。					

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○中学校ブロックで期間を合わせてメディアコントロールチャレンジに取り組む。 ○中学校ブロックで、「家庭学習の100%提出」、「チャイム同時スタート・チャイム同時終了」、「授業の中に学び合い」を重点として取り組む。 ○小中間による授業公開・教科研修・情報交換を行う。	○「家庭学習のすすめ」や「自主学習の手引き」を家庭に配布し、家庭での学習時間の十分な確保を目指す。 ○げんぱくメールで保護者の協力をお願いし、メディアコントロールの取組を進める。 ○PTA講演会にメディアコントロールに関する講師を招聘し、PTAが主体的に取り組む意識を高める。